学校番号	３０１６

令和３年度　芸術科（美術）

教科	芸術	科目	美術Ⅰ	単位数	１単位	年次	２年次
使用教科書	「高校生の美術１」　（日本文教出版）						

１　担当者からのメッセージ（学習方法等）

感じ取ったことから考える「絵画・彫刻」、目的や機能から考える「デザイン」、感じ取ったこと・目的や機能から考える「映像メディア表現」など、美術はいろんな形でわたしたちの周りにあります。こういったものを表現としてとらえ、日常の中で興味・関心を持って見るようにしましょう。発想や表現方法のたくさん入った引き出しを持つことが、みんなの美術の力になります。

美術は造形による表現です。「表現したいもの」とそれを表す「形」が必要です。自分なりの感じ方や見方、表現を自分で取り出せるよう自らへの理解を深めて行きましょう。そして、造形の基礎知識、効果的な技能への理解も深めて行きましょう。授業では、ふたつのバランスを取りながら、頭で考えすぎず、手を動かして、感じながら、取り組みましょう。

２　学習の到達目標

美術の幅広い創造活動を通して、美的体験を豊かにし、美術を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、創造的な表現と鑑賞の能力を伸ばし、美術文化についての理解を深める。

３　学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:美術への関心・意欲・態度	b:発想・構想の能力	c:創造的な技能	d:鑑賞の能力
観点の趣旨	美術の創造活動の喜びを味わい、多様な表現方法や美術文化に関心を持ち、主体的に表現や鑑賞の創造活動に取り組もうとする。	感性や想像力を働かせて、感じ取ったことや考えたこと、目的や機能、美しさなどから主題を生成し、創造的な表現の構想を練っている。	創造的な美術の表現をするために必要な技能を身に付け、意図に応じて、表現方法を工夫している。	美術作品などの表現方法の特徴や美術文化などを理解し、そのよさや美しさを創造的に味わっている。
評価方法	制作の様子 作品	制作の様子 ワークシート 制作途中の作品 作品	制作の様子 制作途中の作品 作品	鑑賞の様子 鑑賞レポート 交流用紙

個々の作品評価点、出席、作品制作状況、レポート等の状況も加味して、上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。
学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
前期	オリエンテーション	・年間計画のガイダンス 【表現】【絵画・彫刻】 ・人物クロッキー 生徒相互がモデルになってクロッキーをする。人物の骨格、重心、バランス、動勢などに注意する。毎授業開始時に行う			○		c:対象を見つめて、形体の特徴をつかみ、画面への入れ方などを工夫している。 c:クロッキーの目的を理解し、鉛筆の特性を生かして表現している。	学習活動の様子 制作の様子 作品
	鑑賞	【鑑賞】【絵画・彫刻】 ・浮世絵師　葛飾北斎について映像を鑑賞する ・作家の人生、時代背景、美意識、表現方法の特徴などについて知る ・浮世絵版画の表現や魅力、作品の背景について知る	○			○	a:　作家の人生や、表現方法の特徴などに関心を持ち、美意識や美を求める意欲を感じ取ろうとする。 d:　作家の表現の特質を味わい、自己の意見を述べることができる。	鑑賞の様子 鑑賞レポート
	版の表現	【表現】【絵画・彫刻】 葛飾北斎の浮世絵作品をトリミングし、多色木版画技法でポストカードをつくる。 ・北斎作品の表現と味わいに関心を持ち単純化した図案と色彩の効果などを生かす ・原画を選び、トリミングし、ポストカードサイズの図案をつくる ・4枚の版木に図案の必要な部分をそれぞれ転写し、彫刻刀で彫る ・1版目から順番に刷り重ねていく	○	○	○		a:木版画制作に関心を持ち、材料や用具の活用に積極的に取り組んでいる。 b：感性豊かに、図案づくりができる。 c:木版画の彫り、刷りの特性を理解し、表現効果を考えて生かす。	制作の様子 下絵 作品

後期	WOODY CHAIN MINI	【彫刻】 角材から鎖を彫り出す ・木彫の制作工程を学ぶ ・木彫技法を学ぶ ・デザインを三面図におこす ・鋸、糸鋸ﾊﾞﾐ、彫刻刀による成形後、木工ﾔｽﾘ、ｻﾝﾎﾞﾍﾟｰﾊﾟｰで研磨、木工ﾜｯｸｽ塗装仕上げ	○	○	○		a: モチーフの特徴を表現することに関心を持ち、表現や鑑賞の活動に主体的に取り組もうとしている。 b: 表現形式の特性を生かし、形体を工夫して表現の構想を練っている。 c: 素材、用具の特性を生かし、表現方法を工夫して表現している。	制作の様子 図面 制作中の作品 作品
	文芸祭	【鑑賞】 12月校内展示を行う。 原則として、全員前期課題を展示する。 ・相互鑑賞	○			○	a:作者の意図や表現の工夫などに関心を持ち、その人独自のものとして尊重している。 d:表現のよさや効果的な工夫を感じ取り、それに対して自己の意見を述べることができる。	鑑賞の様子 交流用紙

※　表中の観点について　a:美術への関心・意欲・態度　b:発想や構想の能力
c:創造的な技能　d:鑑賞の能力

※　年間指導計画作成上の留意点
・原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することになりますが、学習内容において特に重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について○を付けています。

※　授業時間数や担当者の都合により、実施順序や内容に変更がある場合があります。